

令和4(2022)年度運営方針(案)

ながの環境パートナーシップ会議 代表理事 金井 三平

ながの環境パートナーシップ会議(以下「P会議」という)は、「アジェンダ21ながの-環境行動計画-2018」(以下「アジェンダ21ながの」という)に掲げる長野市の環境ビジョン『山にみどり・川に清流・谷に風・空に星 自然と和して発展するまち・人のくらし みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの』の実現に向けて行動します。

令和3(2021)年度は、世界がよりよい未来を迎えるために果たす目標として、国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)※」(以下「SDGs」という)の達成を地域からパートナーシップで実現するため、P会議及び各プロジェクトチームがSDGs達成への貢献を意識しながら環境活動を推進しました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により活動が困難だった年でもありました。

令和4(2022)年度は、活動を停滞させることなく、さらにSDGsへの理解を深めるため、P会議及び各プロジェクトチームがSDGs達成への貢献を意識しながら環境活動を推進していきます。

また、プロジェクトサポーター制度を推進するとともに、活動成果報告書やホームページ、SNSなどの広報ツールを活用し、事業者を含む新規会員を確保することで、P会議の活性化を更に進めていきます。

私達は、市民・事業者・行政との協働を拡大させ、地域の豊かな環境を持続させるため、「つなぐ・伝える・実践する」活動に取り組みます。

具体的な行動として

1 「アジェンダ21ながの」を推進します

「アジェンダ21ながの」に基づき、長野市域で環境問題に取り組む市民・事業者・団体・行政との更なる協働による環境活動を推進します。

令和4(2022)年度は、P会議と各プロジェクトの連携強化による活動の充実**(実践する)**とともに、その活動を広く発信**(伝える)**し、次世代につながる**(つなぐ)**発展的な行動により、環境ビジョンの実現を目指します。

(1) P会議とプロジェクトチームの連携強化と環境活動の充実を図ります(実践する)

「アジェンダ21ながの」の趣旨に沿った活動に取り組む外部団体・事業者との共催や参加などを通じ、協働の拡大を図ります。

① 主催事業の開催

令和4（2022）年度は、昨年引き続き、ながの環境団体大集合について、若者が参画するスペシャルプロジェクトチームを早期に組織し、団体・事業者・学校やプロジェクトチームなどの環境活動を「つなぐ・伝える・実践する」場として、各団体の活動の相互理解が推進され、更には、新規会員の入会につながるよう、充実した主催事業を展開します。

② 他団体との共催・参加・支援

各団体との共催や環境活動へ参加及び支援を通じて、若い世代や市民・事業者などにP会議の活動を広く発信し、協働による活動の参加を呼びかけます。

(例) 信州環境フェア、長野市環境こどもサミット、アレチウリ駆除作業、ごみひろい運動、山の日ウォーキング、信州大学地域環境演習、地域づくり出合いのひろば、地域まるごとキャンパスなど

③ 理事会とプロジェクトチームの連携強化

理事会とプロジェクトチームの連携を強化し、一体となって環境活動を進めていくため、合同会議を適宜開催します。理事会がプロジェクトチームの活動を把握し、各プロジェクトの連携等助言及び支援することでプロジェクトチームの活動の充実を図ります。

④ 「脱 使い捨てプラスチック」を目指すための調査研究

プラスチックゴミによる海洋汚染の懸念から使い捨てプラスチック製品の使用削減が世界的に進んでいることを受け、長野市域におけるリユース食器の導入・普及促進や麦ストローの製造・普及促進などについて調査研究を関係機関とともに進めます。

⑤ 気候変動によって発生する問題の解決に向かった取り組み

長野市の台風19号による千曲川の浸水被害は甚大なものであり、今後もしばしば起こりうることを考えられます。2050ゼロカーボン宣言に基づき二酸化炭素を減らすために、市民・事業者・行政のそれぞれが危機感を持って再生可能エネルギーを積極的に導入し、森林や里山、水環境資源の適切な管理を行うことを目指します。

(2) ながの環境パートナーシップ会議の活動を広く発信します（伝える）

P会議及びプロジェクトチームの活動状況と成果を活動成果報告書「手をむすんで」にまとめ、P会議の活動をより積極的にアピールします。また、ホームページなどに加えて、SNS（フェイスブック）を活用し、市民・事業者・団体などに広く情報発信を行い、環境意識の啓発に努めるとともに新規会員の入会につながります。

(3) 次世代につながり成果の見える活動を行います (つなぐ)

目標である長野市の環境ビジョンの実現に向けた活動を強化するため、プロジェクトサポーター制度を更に推進し、団体や事業者との協働の拡大を図るとともに、世代をつないだ活動基盤を構築するため、特に次世代の若者との協働による活動を進めます。

2 持続可能な環境パートナーシップ会議を目指します

P会議の活動が今後も持続するために、次の項目を実施します。

(1) プロジェクトチームを充実・拡大します (実践する)

自由な発想で楽しみながら取り組める環境活動の提案を積極的に受け入れ、P会議の新規プロジェクトとして立ち上げていくなど組織の拡充を図ります。

(2) 仲間づくりの推進と会員の増員を図ります (つなぐ)

充実した環境活動を行っていくためには、市民・事業者・専門家・若者など、多様な知見・能力を有している方々の集積が必要です。会員・プロジェクトチーム・理事会が協力し、また、それぞれの立場で次世代の仲間づくりを進めるとともに、会員の増員を図ります。

(3) 新規会員等を対象にした研修会を開催します (伝える)

P会議の活動をより理解していただくとともに、協働による事業展開を推進していくため、引き続き新規会員や事業者を対象にした研修会を開催します。

(4) 充実した活動を実行するために活動資金を確保します (実践する)

市負担金の増額をお願いするとともに、各プロジェクトチームでの環境活動支援団体の助成金、企業等からの寄付金・協賛金を積極的に活用します。

※【 参 考 】

SDGsとは・・・

2015年(平成27年)9月、国連において、新たなアジェンダとして「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されました。これは、人類の発展や地球の繁栄のため2030年までに達成すべき行動計画として、宣言と目標を掲げたものです。

この目標が「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals 略してSDGs(エスディーゼーズ))」であり、これまでのアジェンダ21やミレニアム開発目標(MDGs)などの理念と成果を土台に、豊かさを追求しながら地球を守ることを呼びかける17の目標と169の行動計画で構成され、「誰一人取り残さない」という理念のもと、環境問題と経済発展を両軸に、先進国、発展途上国を含めた全ての国々に持続可能な世界に向けての変革を求めています。

